

我孫子

野口澄夫 / 編著

施設と水



電子書籍の操作について

- ・ 目次をクリックすると、該当ページまで移動します。
また、移動先ページの見出しをクリックすると、目次に戻ります。
- ・ 「十字キー」やマウスのホイールを使用して読み進めます。
- ・ 「フルスクリーンモード」に設定すると、読みやすくなります。

「フルスクリーンモード」設定方法

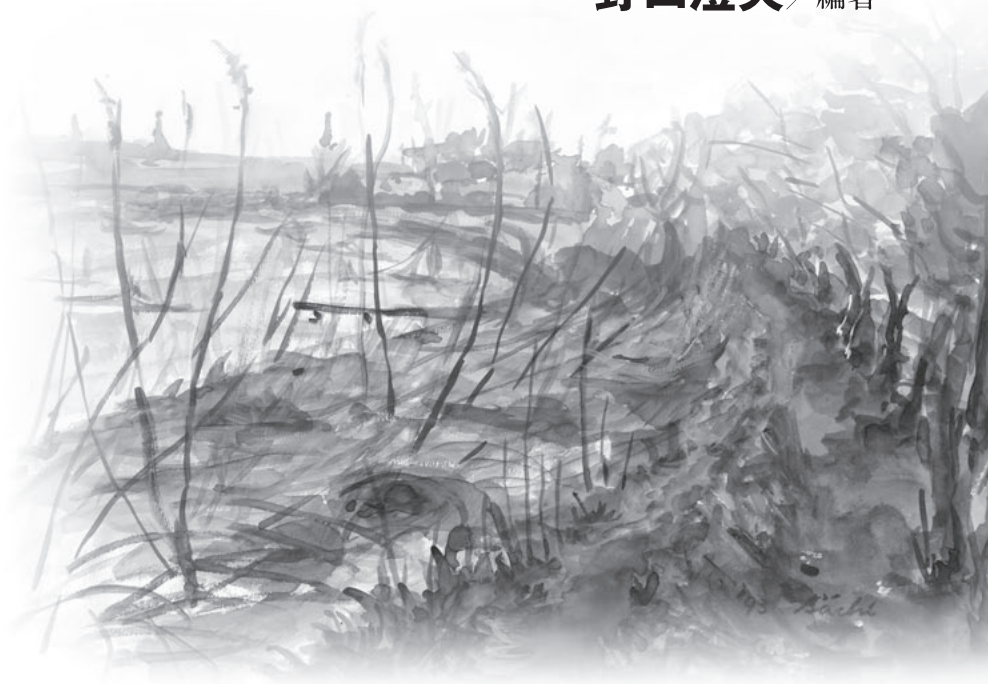
メニューバー「表示」→「フルスクリーンモード」

Escキーで元の表示に戻ります。

※パソコン環境により、「フルスクリーンモード」が使用できない場合があります。

我孫子 施設と水

野口澄夫／編著



文芸社

自序

2011年8月、『我孫子人物誌』を文芸社から出版以来、約半年が経過した。

前編著では非力をも省みず、我孫子で生まれ育った人々（岡田武松、血脇守之助、秋谷七郎、中野治房）、途中から我孫子に移住、生涯を遂げた人々（杉村楚人冠、大澤岳太郎、松岡鼎）、さらには短年月ながら我孫子に住んだ人々（柳宗悦、志賀直哉、武者小路実篤、中勘助、瀧井孝作、バーナード・リーチ）、並びに長年別荘として愛用した嘉納治五郎等14名の方々を書かせていただいた。

今回はその続編として、我孫子の施設、具体的には日立総合経営研修所、山階鳥類研究所、我孫子鳥の博物館等を取り上げた。

ついで、我孫子市を取り囲んでいる水について、具体的には手賀沼、利根川、北千葉導水、上下水道等に言及した。

なお前著でふれなかった岡田家、小川家、海老原家、来見寺等のあれこれについても追加した。

最後に、都立霊園に眠る諸先輩の墓参をもって幕とした。

もとより力量不足、誤りも多いことと思うが、読者の御叱正をいただければ幸甚である。

なお前著同様引用文（原文のまま）についてはすべて「 」

で示したが、原著者に対し深甚なる謝意を表したい。

また、写真等各刊行物から拝借したことについても、心から御礼を申し上げたい。

さらに、登場人物にはすべて敬称を略させていただいたことをお許し願いたい。

若松の陋屋にて

編著者

我孫子 施設と水◎目次

| | |
|--------------|----|
| 自 序 | 3 |
| 1. 日立総合経営研修所 | 11 |
| まえがき | 13 |
| 営研の創設 | 15 |
| 土地探し | 17 |
| 建家の設計 | 18 |
| 研修生の選出と生活 | 20 |
| 研修内容 | 22 |
| 2. 山階鳥類研究所 | 27 |
| まえがき | 29 |
| 初代所長 山階芳麿の生涯 | 30 |
| 誕生・軍人生活 | 30 |
| 学生生活・標本館 | 32 |
| 財団法人化 | 34 |
| 研究活動 | 35 |
| 雑種不妊性の研究 | 35 |
| 染色体形の研究 | 36 |
| 空襲、疎開、戦後生活 | 37 |
| 鳥類保護 | 39 |
| 飼 育 | 43 |

| | |
|-----------------------------|----|
| 受賞に受章 | 44 |
| 山階研、我孫子へ | 45 |
| 第2代所長 黒田 ^{ながひさ} 長久 | 48 |
| ミズナギドリの研究 | 49 |
| ムクドリの研究 | 51 |
| 第3代所長 山岸 ^{さとし} 哲 | 54 |
| ホオジロの研究 | 55 |
| マダガスカルの鳥たち | 59 |

3. 我孫子市鳥の博物館

| | |
|------------|----|
| まえがき | 63 |
| 鳥博の誕生 | 65 |
| 鳥類展示館建設委員会 | 66 |
| 鳥博の施設 | 71 |
| 展示内容 | 74 |
| 鳥博の組織 | 77 |

4. 我孫子の別荘

| | |
|-------------------------------|----|
| まえがき | 81 |
| 嘉納別荘 | 83 |
| 内山別荘(瀧井 ^{かぐう} 孝作仮寓跡) | 86 |
| 楚人冠別荘 | 89 |
| 「白馬城」 | 90 |
| 「枯淡菴」 | 93 |
| 「別荘生活」 | 94 |
| 島久別荘 | 96 |

| | |
|-----------------------|-----|
| 三樹莊 | 97 |
| 三谷別莊 | 101 |
| 村川別莊 | 102 |
| 村川別莊はなぜ我孫子に？ | 104 |
| 別莊を守る苦勞 | 106 |
| 大谷別莊 | 108 |
| 5. 手賀沼 | 111 |
| まえがき | 113 |
| CODとBOD | 114 |
| Y.P.とT.P. | 119 |
| 新「手賀大橋」 | 122 |
| ガシャモクの学名 | 124 |
| 6. 利根川の東遷と我孫子 | 127 |
| まえがき | 129 |
| 利根川の東遷 | 130 |
| 東遷工事 | 133 |
| 利根川の改修工事 | 135 |
| 布佐・布川開削 | 136 |
| 古利根沼 | 138 |
| 田中遊水池 | 140 |
| 7. 北千葉導水事業と我孫子 | 143 |
| まえがき | 145 |
| 北千葉導水事業 | 147 |

| | |
|-------------------------|------------|
| 手賀沼と第二機場 | 149 |
| 手賀沼の洪水対策 | 152 |
| 8. 我孫子の上下水道 | 155 |
| まえがき | 157 |
| 我孫子市上水道事業のあゆみ | 159 |
| 上水道経営と料金 | 161 |
| 我孫子市下水道事業のあゆみ | 164 |
| 下水道経営と料金 | 168 |
| 9. 布川通い | 171 |
| まえがき | 173 |
| 来見寺 | 174 |
| 小川家・海老原家 | 181 |
| 小川家と柳田国男記念公苑 | 182 |
| 我孫子・布川の播磨人 | 186 |
| 10. 岡田家あれこれ | 189 |
| 中町へ移転 | 191 |
| 呉服商から酒屋へ | 193 |
| 布川気象観測器製作所 | 194 |
| 11. 墓 参 | 197 |
| まえがき | 199 |
| 都立八柱 ^{やはしら} 霊園 | 200 |
| 嘉納治五郎之墓 | 200 |

| | |
|---------|-----|
| 血脇守之助之墓 | 201 |
| 杉村楚人冠之墓 | 202 |
| 都立青山霊園 | 203 |
| 志賀直哉之墓 | 203 |
| 都立小平霊園 | 204 |
| 柳 宗悦家之墓 | 204 |
| 八王子中央霊園 | 205 |
| 武者小路家之墓 | 205 |
| あとがき | 206 |

本文さし絵 野口 幸子

1. 日立総合経営研修所

まえがき

日立総合経営研修所（以下営研と略）は我孫子駅南口から阪東バスで約10分、「我孫子中学校」下車、徒歩約1分で正門着、天王台駅からは徒歩約15分、バスでは約3分、「東我孫子車庫」下車、徒歩1分程。

営研を立ち上げた倉田主税（^{ちから}1889～1969）は福岡県生まれ。明治45年（1912）仙台高工（現東北大学）機械卒、久原鋳業入社、大正9年（1920）同社から分離独立した日立製作所に移り、昭和16年（1941）取締役、昭和22年（1947）常務、同年創業社長小^お平^{だいら}浪^{なみ}平^{へい}の公職追放により、第2代社長兼会長に就任。

営研の創設は昭和37（1962）年、その間、営研は昭和58年に『営研20年の歩み』*を出版、それを拝借、一読した。

* 『営研20年の歩み』日立総合経営研修所発行（昭和58）非売品



前庭から望む本館

営研の創設

営研の創設者は第2代日立製作所社長の倉田主税である。その経緯について倉田は講話の中で、つぎのように述べている。

「私は明治45年、当社に入社して以来50年の年月をこの日立で過してきたが、この間馬車馬式に働いてきて、現在になって過去を振り返ってみると、極めて幅の狭い、仕事一方で過ごしてきた。それで私はわれわれの不足しているものをなんとかして補い、研鑽する方法はないか、それを他力でやるか、自力で勉強するか、これが私の長い間の宿願であった。

昭和35年、当社創業50周年に際し、記念事業の一つとして、この念願をぜひ実現したいと考え、先進諸国の実情を種々調査し、特に米国のクロトンビルにあるゼネラル・エレクトリック社の経営者学校から多大のヒントを得て、昭和37年6月に日立経営研修所を開設する運びとなったわけで、私としては誠に喜ばしい限りである。

私は長い間経営の衝に携わってきたが、その間特に痛感したことは、経営者の任務は企業規模が拡大すればするほど、また技術革新や競争が激化すればするほど、ますます重大かつ困難になってきているということである。

しかし、いかに困難な問題に遭遇しても、これを放棄したりすることは断じて許されないのである。当社の盛衰は、数万の

従業員は申すまでもなく、数十万の株主、数百万数千万の顧客を通じて、直接間接に国民経済全般に対して大きな影響をもたらすからである。この重大な社会的責任を担い、当社の将来の進むべき方向を定め、実質的に動かしてゆく者は誰にも増して経営者である。経営者は複雑多岐な技術上、あるいは経営上の諸問題を正しく認識し、その上に立って発生するあらゆる大きな問題と対決し、決定してゆかなければならないのである。そのためには日常の仕事をただ遂行するだけでなく、変動しつつある現実を広く深い視野で鋭く見つめ、科学的思考の上に立って正しく決断し、組織の総力を効果的に結集し、経営してゆくことがぜひとも必要である。

日立経営研修所が、これら経営に携わるべき人の勉学・鍛錬の道場として有効に活用され、将来当社のみならず、ひいては国民経済全般の繁栄に寄与することを強く期待し念願するものである。」

クロトンビル (Crotonville) にあるゼネラル・エレクトリック社の経営研修所創設は昭和31年 (1956)、営研はおくれること6年、昭和37年 (1962) 6月のスタートであった。

土地探し

「山紫水明、都心から隔絶し、かつ社内外講師の往復に便宜な所」として都心から40km以内を想定、青梅、鎌倉、我孫子等の候補地を比較検討した結果、我孫子に決定した。

まず料亭みどりを買収（別館地区9,149坪）、その後、本館地区5,031坪、合計14,180坪を取得した。両地区の間には幅4mの公道が走り、全体を二分しているが、これを敷地の西端に移し、両地区をまとめる折衝は一部地元の反対で成功しなかった。

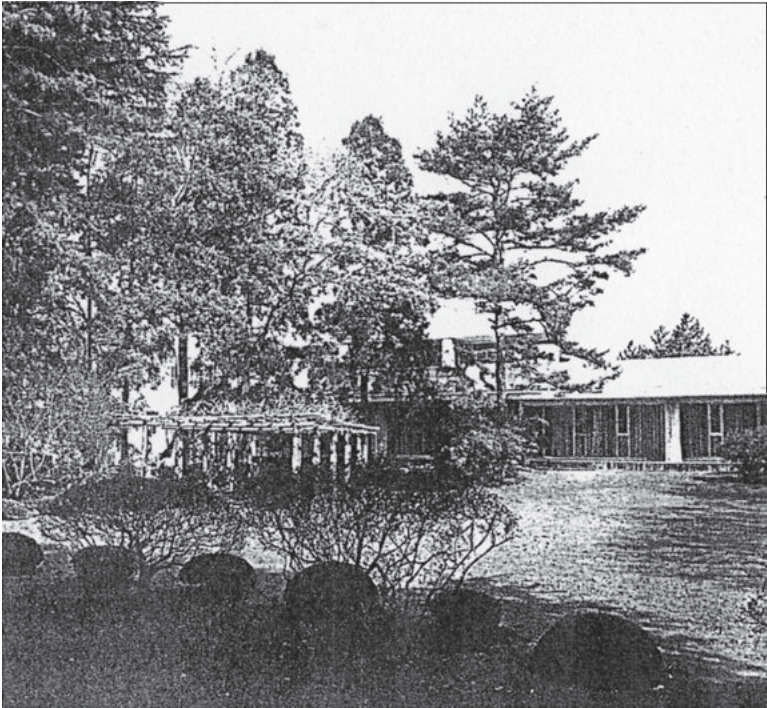
なお別館地区は元日本郵船社長大谷登の別荘跡で、料亭時代の「つばめ」「つる」「はと」「かも」「ほととぎす」と名づけられた建物が現在では「ほととぎす」を除いて物置、倉庫等として使用されている。「ほととぎす」は現在研修生の座禅、茶道、吟行用に重用されている。

建家の設計

本館は4人一組とする16人が相互に研鑽できる独特の設計がなされている。

自社専用の研修所は本邦では最初といわれている。

なお別館は昭和38年11月に開設された青山研修所を昭和47年6月、当地に新築移転したもの、主として部課長研修に使用されている。



中庭から望む別館

途中省略

続きは製品版にてお読みください。

編著者プロフィール

野口 澄夫 (のぐち すみお)

1926年、長野県生まれ。

1950年、東京文理科大学化学科卒業。

1954年、同大学院4年修了。

〃 年、東京教育大学（現・筑波大学）理学部助手（3年）。

1957年、(株)日立製作所入社。

1960年、理学博士（東京教育大学）。

1963年、日立化成工業（株）分社（日立から）。

1974年、〃 茨城研究所長。

1987年、〃 常務研究開発本部長。

1989年、〃 顧問。

1995年、〃 退任。

1995(平成7)年9月、「あびこガイドクラブ」結成、入会、今日に至る。

2000年より『あびこガイド余話—あびこに住んだ人々他—』を5巻刊行。

2011年8月、文芸社より『我孫子人物誌』を刊行。

我孫子 施設と水

2012年9月15日 電子書籍版発行

編著者 野口 澄夫

発行者 瓜谷 網延

発行所 株式会社 文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

©Sumio Noguchi 2012 Coded in Japan

ISBN978-4-286-12323-3

●本作品の全部または一部を複製、編集、修正、変更、頒布、貸与、公衆送信、翻案、配布する等の著作権及び著作者人格権侵害となる行為、および有償・無償に関わらず、本データを第三者に譲渡することは禁止いたします。